天理市豊田町　豊田狐塚古墳発掘調査 現地説明会資料

天理市教育委員会文化財課

現地説明会日時 平成 28 年 4 月 9 日（土）13:00 ～ 15:30（※雨天の場合は 4 月 10 日（日）に順延）
所 在 地　天理市豊田町
調査期間　平成 27 年 12 月～平成 28 年 5 月（予定）
調査担当　天理市教育委員会文化財課　主査 石田大輔

1．はじめに

天理市教育委員会は天理市建設部が主管する都市計画道路（別所丹波市線）事業に伴う発掘調査を実施しています。**このたび豊田狐塚古墳の発掘調査を実施し、６世紀中葉に築造されたと考えられる未知の横穴式石室を発見しました。平成 26 ～ 27 年に豊田トンド山古墳に続く、２基目の横穴式石室発見となります。**

2．調査地付近の概要

調査地は天理市豊田町集落北側の丘陵地にあたり、布留川の形成した扇状地･段丘を見下ろす高台にあります。**布留遺跡**は旧石器時代から現代に至るまで連綿と続く大規模な複合遺跡で、古墳時代中期～後期に最も繁栄を遂げます。首長居館や工房が見つかっており､有力豪族**物部氏**の本拠地であった可能性が考えられています。また、布留遺跡の南方には塚穴山古墳や峯塚古墳など終末期古墳を擁する**杣之内古墳群**が広がっています。

この布留遺跡の北方の丘陵上には古墳時代後期の大規模な群集墳として知られる**石上・豊田古墳群**があり、２基の大型前方後円墳(石上大塚古墳･ウワナリ塚古墳)のほか 150 ～ 200 基ほど円墳が群集しています。このほか、岩屋谷にも前方後円墳（岩屋大塚古墳）と方墳（ハミ塚古墳）が築かれています。

今回の調査地はこの**石上・豊田古墳群の南西端付近**にあたり , **平成 26 ～ 27 年に大型横穴式石室が発見された豊田トンド山古墳の南東約 100 mの地点**にあります。

3．今回の調査の概要（調査進行中のため見解に変更が生じる場合があります）

新発見の横穴式石室　豊田狐塚古墳は明治８年当時の文書に「20 年ほど前に発掘した」旨の記述があり、江戸時代末期に盗掘がおこなわれ、勾玉や刀などが出土したことがわかっています。当時のことは地元豊田町にも伝承が残っています。しかし、この文書にはどのような埋葬施設から遺物が掘り出されたのかということに関する記載はなく、遺物も一部が別の場所に再埋納されたと記されるほかは所在不明となっています。その後も考古学的調査は実施されていなかったため、豊田狐塚古墳の時期や埋葬施設に関する手がかりはこれまでありませんでした。**今回の発掘調査により横穴式石室が存在することを初めて確認**しました。

横穴式石室の特徴　横穴式石室は調査前には完全に埋没していましたが、地表面から 50cm ほど掘り下げると最上部の石材が姿を現しました。**見つかった横穴式石室は南方向に開口しており、調査区内に玄室全体と羨道の一部が含まれています。**両側に袖部を有する**両袖式**の石室です。**玄室は床面で全長約 4.4 m、奥壁の幅約 2.2 m、床面からの高さ約 2.2 mあります。**羨道は玄門の幅約 0.8 mで、調査区内では長さ約１mを確認していますが、南側は調査区外となるため、本来の長さはより長いものであったと考えられます。

天井石と側壁の一部の石材は石材採取により失われています。壁面には 30 ～ 100cm 程度の大きさの石材を７段程度積んでいます。床面には直径５～ 10cm 程度の床石を敷き詰めています。下部に排水施設などを有する可能性がありますが、現時点では未確認です。

出土遺物　**玄室内は盗掘を受けているものの、鏡、馬具、玉類など多数の副葬品が遺されていました。**

・鏡　小型鏡（旋回式獣像鏡）
・鉄 製 品　馬具（環状鏡板付轡２・金銅装三葉文楕円形杏葉１・雲珠１・辻金具５など）
　武器（鉄刀・鉄鏃など）
・玉　類　水晶製切子玉・丸玉・管玉・土製丸玉 100 以上・ガラス製小玉・琥珀製平玉・銀製空玉など
・土　器　須恵器 50 点以上（有蓋台付長頸壺・高杯・ハソウ・杯身・杯蓋・無蓋高杯など）
　土師器（直口壺など）

出土遺物の時期は**須恵器や馬具などの特徴から６世紀中葉～後葉**のものとみられます。

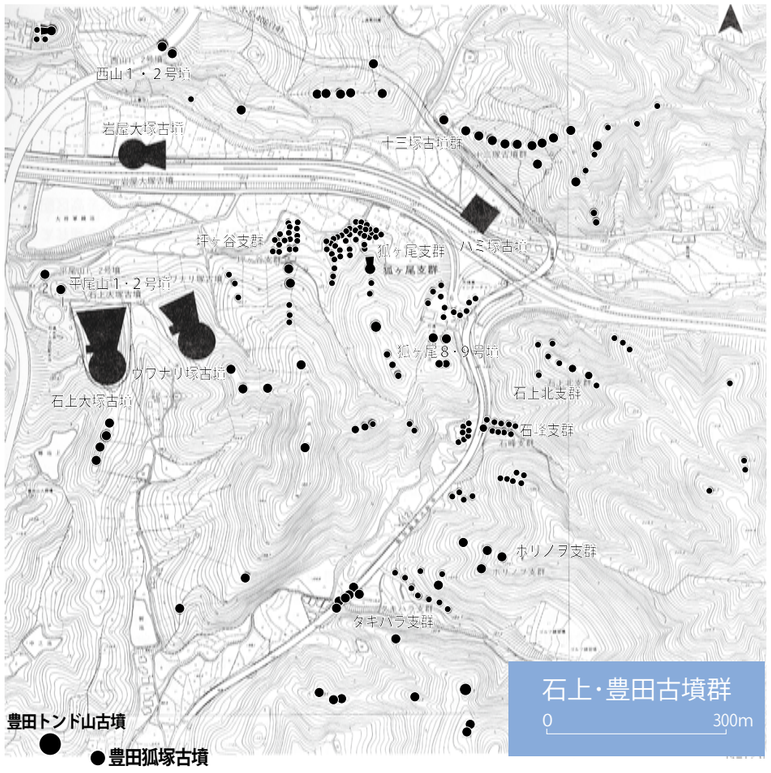
埋葬状況　盗掘は玄室の中央付近で一部床面にまで達しているものの、それ以外の部分では埋葬当時の状況が比較的よく残しています。**床面には木質が残存する箇所があり、少なくとも３基の木棺（推定）が安置されていた可能性があります。**また、玄門付近の須恵器には奥壁付近の須恵器よりやや新しい時期のものがみられることから、**追葬がおこなわれた可能性が考えられます。**

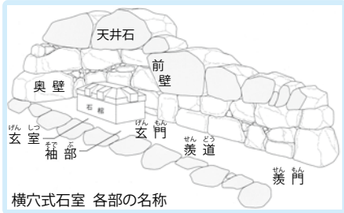
墳　丘　墳丘の形状については現在調査を進めていますが、**直径 20 m程度の円墳となる可能性**があります。後年の開墾等により古墳の北半は大きく形状が変わっています。

4．おわりに

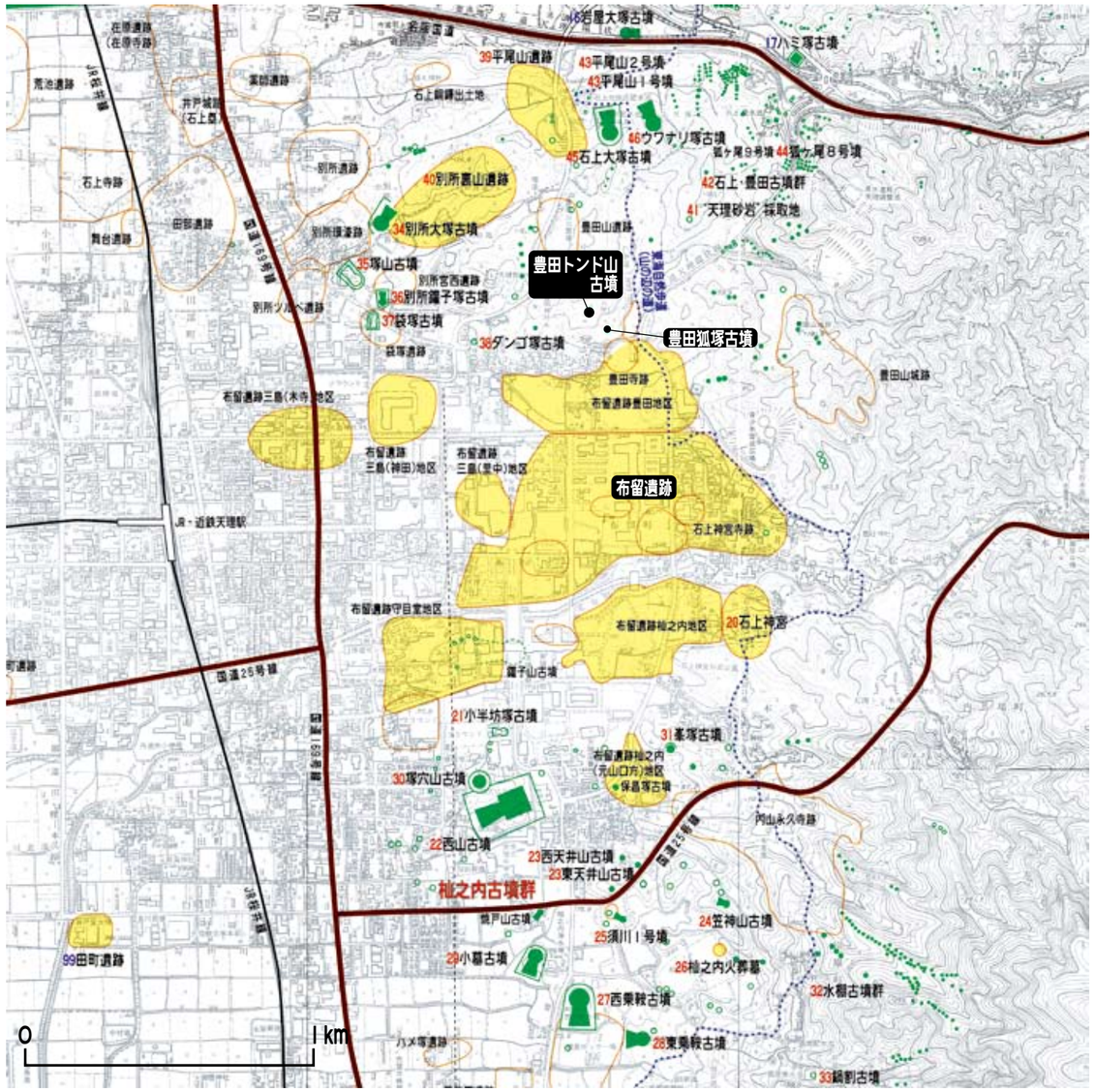
豊田狐塚古墳の墳丘は、約 150 ～ 200 基程度ある石上・豊田古墳群の円墳のなかでも有数の規模を有しています。また、横穴式石室についても前方後円墳（石上大塚古墳・ウワナリ塚古墳など）や方墳（ハミ塚古墳）の石室に次ぐ大きさであり、他の円墳の横穴式石室と比較して大型のものといえます。さらに、石上・豊田古墳群における小規模な円墳は尾根筋や斜面に密集して分布している一方､豊田狐塚古墳は単独で高所に立地しており、平成 26 ～ 27 年に大型横穴式石室が発見された豊田トンド山古墳と立地に共通性があります。古墳群全体で見ても特徴的な立地といえます。

豊田狐塚古墳は石上神宮や布留遺跡を見下ろす高所にあり、これらを強く意識した立地といえます。墳丘や横穴式石室の規模、副葬品の質・量からみても、首長層を支えた有力者の墓である可能性が高いと考えられます。





横穴式石室 各部の名称

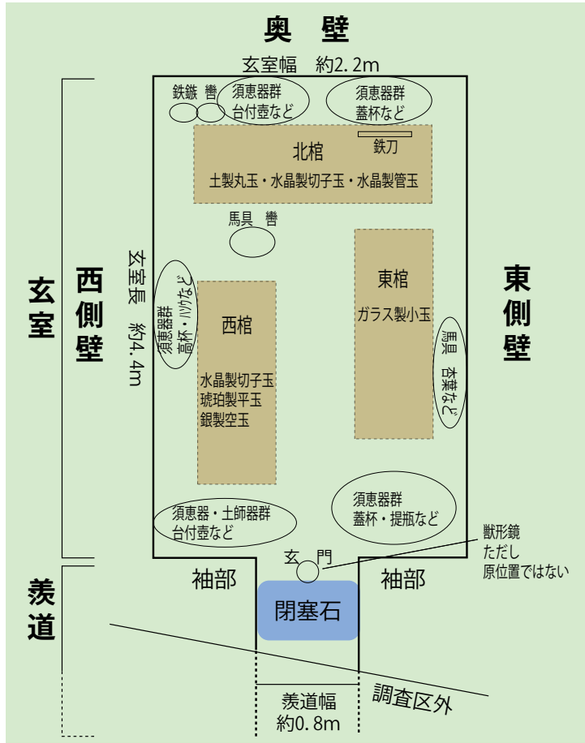


豊田狐塚古墳の位置

航空写真（北から）

航空写真（西から）

横穴式石室全景（南から）



横穴式石室模式図

横穴式石室全景（北西から）

玄室入口付近の土器

豊田狐塚古墳出土遺物

小型鏡〔旋回式獣像鏡〕（直径9cm）

旋回式獣像鏡は全国で 120 面程度が知られている倭製鏡。5 世紀後半～6 世紀初頭の製作。石上・豊田古墳群ではホリノヲ 1 号墳に次ぐ出土（昭和 5 年出土・現在東京国立博物館蔵）。

馬具〔金銅装三葉文楕円形杏葉〕（幅 11cm）

杏葉は馬の胸や尻などを飾った馬具。本例は鉄地板に金銅板を被せた金銅装杏葉である。三葉文楕円形杏葉は国内で 25 例程度が知られている。

玉類（手前の管玉　長さ 2cm）

棺ごとに異なる種類の玉が副葬されている。北棺からは水晶製玉・土製玉、東棺からはガラス製玉、西棺からは琥珀製・銀製の玉が出土。